新たな浄水場の建設
～新石川浄水場が完成します！～

新石川浄水場完成予想図

企業局イメージキャラクター「水道マン」

本土復帰以前に建てられた最も古い石川浄水場

石川浄水場は、沖縄本島のほぼ中央部のうるま市石川地内にある浄水場で、本島中南部の十六市町村へ水を供給しています。企業局の現在管理する五つの浄水場の中では一番古く、一九六七年（昭和四十二年）六月に、琉球水道公社により建設されました。

建設当初の施設能力は七万五千立方メートル／日でしたが、年々増大する水需要に対処するために昭和五十年に十五万立方メートル／日の施設能力を持つ浄水場へと拡張されました。

新たな石川浄水場の建設

石川浄水場は、建設後約四十年が経過し、建物のコンクリート劣化など、施設全体の老朽化が進んでいます。また、沖縄県の将来の水需要増大に対応するため、施設能力を増強する必要があるのですが、現在の浄水場の敷地がうるま市の中学校や住宅地に隣接しているため、施設を拡張する余地がありません。

このため、現在の石川浄水場をうるま市石川東恩納地先の埋立地に、十六万五千六百立方メートル／日の施設能力を持つ「新石川浄水場」として拡張移転することになり、平成十二年度から建設事業に着手し、平成二十四年一月の供用開始を予定しています。

琉球水道公社とは・・・

戦後の沖縄が本土に復帰するまで、米軍が管理する上水道から水を分けてもらい、市町村へ給水を行っていました。本土復帰（昭和47年5月15日）に際し解散し、同時に、公社の財産等を沖縄県企業局が引き継ぎ、新生沖縄県の水道用水供給事業がスタートしました。

海だった場所に、
新しい浄水場を建てたんだ！

■これまでの主な経過

平成12年	12月	埋め立て免許取得
平成13年	3月	埋め立て工事 着手
平成15年	9月	埋め立て工事 完了
平成15年	10月	浄水場建設工事 着手
平成24年	1月	浄水場 全面供用開始予定

総事業費:約420億円

水道の更なる安全・安心・安定供給

浄水場の建設と並行して、浄水場敷地内に川やダムの水を貯える原水調整池、うるま市内に水道水を貯える調整池を建設しています。

これらの調整池（タンク）により、急激な水需要の変動や、停電、施設事故などに対応できるようになり、水のさらなる安定供給が実現します。また、県民がより安心して飲めるおいしい水道用水の供給を図るため、高度浄水処理施設の導入（平成二十六年運用開始予定）も進めています。

そのほか、浄水場の一部は多目的広場として、また、埋め立て護岸の一部は水辺の広場として、地域住民や県民に開放します。

新石川浄水場設計基本方針

- **安全性**　安心して飲めるおいしい水の供給
- **安定性**　渇水や地震などの自然災害に強い施設
- **経済性**　供給水のコスト削減を追求した施設
- **環境保全**　周辺環境に調和した親しまれる施設
- **公共性**　公共施設としての有効利用が可能な施設
- **情報公開**　水道事業の広報活動に利用できる施設

浄水場を見に行こう！

企業局では、各浄水場で施設見学の受け入れを行っています（新石川浄水場は供用開始以降の見学案内となります）。

見学は予約制となっており、見学できる日時は、基本的に平日の九時から十七時までです。見学の二週間前までにご希望の施設へ直接電話でご連絡ください。

※見学団体の重複などで希望日時に見学できない場合があります。

お問い合わせ　県企業局総務企画課 TEL:098-866-2803 FAX:098-866-2819